

いつか 必ず きっと



夏休み前とは全く異なる状況です。

覚えていますか。入学式の翌日から2か月間にわたって休校になった第1波の緊急事態宣言の時のことを。あの頃は、未知のウイルスに対する恐怖心から、学校も、お店もストップさせて、みんなが行動を控えて未知のウイルスを協力して抑え込もうとしていました。

6月に学校が再開してからは、登校前の検温、マスクの着用、手洗い、換気、黙食を柱とする対策を行ってきましたが、私たち教員も含め、コロナウイルスや新しい生活様式に対する慣れから、スタートした頃の意識が徐々にゆるんできていたことも確かです。

しかし、デルタ株の流行で、状況は大きく変わっています。医療は災害レベルに行き詰って余裕がなくなり、命の選別（医療に対する飽和から治療を断念する）が現実となっています。それは、デルタ株が従来のウイルスと比べて感染力が大きく違うからです。新聞、ニュースなどでは、1人の感染者が何人に感染を広げるかということで、通常風邪は2人、インフルエンザは1人強、新型コロナウイルス従来株は1.5～3.5人、新型コロナデルタ株は5～9.5人という、デルタ株がいかに脅威かを表すデータが明らかになっています。

また、ワクチン接種を2回終えた人でも、接種していない人と同じように感染（ブレークスルー感染）し、軽傷で気づかないまま感染を広げる可能性もあります。ワクチンは、感染後の重症化リスクは1/10にしてくれますが、感染するリスクは1/3程度にとどまるのです。

さらに、10代の感染者数は、学校が夏休み中にも関わらず、この1か月で約6倍に増えています。集団生活が再開される夏休み明けは、クラスターを避けることは難しいと危惧されており、先生から子供への感染、子供どうしの感染に加え、子供から家族への感染の連鎖が懸念されています。

緊急事態宣言中は、感染対策のギアを1段上げていきます。

デルタ株に関しては、まだまだ未知な部分もありますが、わかっていることもたくさんあるわけです。科学的根拠に基づいて、今できることをギアを1段上げてやっていきましょう。

デルタ株への感染防止対策として大切なのは、「人と人の距離は2倍、会話時間は半分に」という意識になります。文科省が出した「学校現場が感染症対策の実施状況を再点検するためのチェックリスト」の中にも、口教室において、レベル3の地域では、児童生徒の間隔を可能な限り2m（最低1m）確保するように座席を配置していますか。また、レベル2および1の地域では、1mを目安に最大限の間隔をとるように座席を配置していますか。という項目があります。しかし、現実的には座席の間隔を1m離すことも難しいです。そういう状況の中、子どもたちが学校生活を安心して過ごすために保護者の皆様へのお願いと学校での対応をお知らせいたします。

- ① 不織布マスクに比べてウレタンマスクは感染防止効果が弱いことが明らかになっています。現状では、ウレタンマスクや手作り布マスクの使用を止め、不織布マスクなど高性能のマスクを使用するようにご協力お願いいたします。
- ② 残暑の中で授業を行うことになると思います。エアコンを使用しながらも、教室は、窓を開け換気しますので、汗拭き用のタオルや水筒の準備もお願いいたします。
- ③ 着替えるときの密を回避するために登下校時の服装は体育着とします。
- ④ 登校前の検温と健康観察は今後も必ず実施してください。
- ⑤ 発熱や風邪の症状が見られたり、体調が思わしくないときは、無理をして登校させず、自宅で休養させるようにしてください。
- ⑥ 学校では、朝の検温カードのチェックとともに、念には念を入れ、朝の検温を実施します。
- ⑦ 学校で子供が体調不良を訴えた場合は、今までのように1時間保健室で休ませて様子を見ることはせず、ご家庭に連絡し早退とさせていただきます。
- ⑧ 清掃時間は、今までの15分を10分に短縮します。
- ⑨ 清掃終了後だけでなく手洗いや手指の消毒を徹底して行います。
- ⑩ 下校時は、安全な一斉下校と、下校時の密を避けるために、帰りの会が終了した学級から随時下校させます。

学校としても、今まで以上に意識を高め、感染対策と学業の両立に努力していこうと思っています。保護者の皆様にもお願いすることも出てくると思いますが、ご理解、ご協力お願いいたします。

生徒のみなさんは、中学校入学後、学校生活・学校行事や部活動が制限されることが続き、今までも大変な思いをしてきたことだと思います。今が一番の正念場です。みなさんやご家族が健康的な生活を送れるよう、もうしばらくみんなで頑張っていきましょう。